

学報

スポーツ文化の風を発信する

NITTAIDAI 23号

2010. Winter

CONTENTS

特集1 ■バンクーバー五輪迫る! — 1

本学関係者、日本選手団を応援しよう!

特集2 ■第86回東京箱根間往復大学駅伝 — 5

応援ありがとうございました

新採用教員の研究内容紹介 — 7

学外研修報告 — 11

クラブ情報 ●09年度下半期クラブの主な大会成績 — 13

NEWS ●09年度下半期ニュース — 14

INFORMATION ●dot.NITTAIDAI — 15

ガンバレ日体大

厳冬のバンクーバーで、熱い戦いが始まろうとしている。
「第21回オリンピック冬季競技大会(2010/バンクーバー)」、
「バンクーバー2010 パラリンピック冬季競技大会」が開幕する。

カーリング、アルペンスキー、日体大関係者に期待が集まる

バンクーバー五輪迫る!

2010 バンクーバー冬季オリンピック・パラリンピック壮行会

日本体育大学 日本体育大学女子短期大学部



VANCOUVER 2010 XXI Olympic Winter Games

1月30日、横浜・健志台キャンパスにおいて「2010バンクーバー冬季オリンピック・パラリンピック壮行会」が開催された。当日は本橋麻里選手、小池岳太選手が出席。山本博准教授が司会を務め、落合学長をはじめ監物永三副学長、具志堅幸司教授両金メダリスト、学生を代表して学友会総務委員長 田丸ゆりさん(健康学科4年)が激励のメッセージを送った。また応援団部、チアリーダー部、深沢男子第一学生寮生も参加。力強いエール、エッサッサによる応援は、選手たちを大いに奮い立たせたに違いない。さらに世田谷と健志台両キャンパス近隣の町内会・商店会を始め地元の方々とも一丸となつてバンクーバーでの活躍を祈念した。

日本体育大学 落合卓四郎学長 メッセージ

本日の壮行会に、各界からご参集賜り、誠にありがとうございます。オリンピック・パラリンピックイヤーは、本学にとって特別な意味があります。日本が獲得した各大会におけるメダルの約4分の1は、本学関係者によつてもたらされたもの。さらに、監督、コーチ、サポートスタッフ、また選手を指導されてきたOB・OGの方々のご活躍を目にするたびに、本学の責任と使命を再認識し、思いを新たに致します。

今回、本学関係者から選手4名、コーチ1名がバンクーバーに向けて旅立ちます。現役日体大生として参加する本橋麻里選手、また話題の高木美帆選手の指導にあたるスピードスケート櫻井知克士コーチをはじめ、各方面からの注目も集まっています。

皆様には、日頃の成果を遺憾なく発揮していただくとともに、多くの人々に希望と勇気を与える熱戦、ご活躍を期待してやみません。選手・関係者の方々のご努力は言うまでもなく、同窓会、保護者会、地域の皆様のご理解、ご支援があつてこそこの晴れの舞台です。この場をお借りしまして、皆様に心より御礼申し上げます。

.....
当日会場では、北京五輪メタリスト 内村航平選手(体育学科3年/体操競技部)の応援メッセージも披露されました

『私は北京オリンピック個人総合のあん馬で2回落下しましたが、オリンピックの大舞台では最後まで諦めないことが勝利につながるのだと我が身を持って実感しました。バンクーバーオリンピック、パラリンピック日本代表選手の皆さん。最後まで諦めずに、これまでの練習の成果を披露してください。私は日体大の体操競技場から応援しています。』

オール日体大の熱い声援に応えたい!

本橋 麻里選手 カーリング

1986年生 北海道立常呂高校、青森市の星短期大学出身、体育学科2年。NTT ラーニングシステムズ所属。
[主な戦績]
06年トリノオリンピック7位/06~09年日本カーリング選手権優勝/07年冬季ユニバーシアードトリノ大会3位/07年軽井沢国際カーリング競技大会3位/08年世界女子カーリング選手権4位 ほか。



学長、理事長先生、諸先生をはじめ、多くの在学生、応援団部、チアリーダー部、エッサッサを披露してくださった深沢男子第一学生寮の皆さん、さらに地域の方々までお集まりいただき、このような温かい壮行会を開いていただいたことを非常にうれしく思っています。本当に有難うございました。1月にヨーロッパ遠征を行いました、そこでの仕上がりの状態も良く、落ち着いた気持ちでバンクーバーに臨めそうです。チーム全員で作ってきたパフォーマンスを一つずつ確認しながら、一戦一戦大事に戦っていききたいと思います。

夏には日体大のトレーニングセンターで調整しましたが、そこで周りの方々からいただいた励まし、気遣いが特に心に響きました。

皆さんの気持ちに応えられるよう、ベストを尽くします。

皆川 賢太郎選手 アルペンスキー

1977年生 北海道私立北照高校、体育学科出身。竹村総合設備スキークラブ 所属。
[主な戦績]
98年長野オリンピック、02年ソルトレイクオリンピック、06年トリノオリンピックから引き続き4大会連続出場。トリノでは男子回転4位入賞。ワールドカップ入賞多数。



今まで本当に多くの方に応援して頂き、うれしい反面、期待に押しつぶされそうなきもありましたが、結果として支援が大きな力となり、代表選考のレースの結果につながったと思っています。選手として期待に応えることができたことが、今は何よりうれしいです。

トリノオリンピックでの雪辱を果すために、今後はオリンピックに照準を合わせて活動していく予定です。オリンピックでは、レースで自分がイメージしている滑りをそのままできれば結果がついてくると信じています。今は頭ではなく体で雪面を離さない滑りができるよう、とにかく練習に励む予定です。そして強い精神力をもって、オリンピックに挑みたいと思っています。

これからもご声援宜しくお願い致します。

佐々木 明選手 アルペンスキー

1981年生 北海道私立北照高校、体育学科出身。エムシ所属。
[主な戦績]
02年ソルトレイクオリンピック、06年トリノオリンピックから引き続き3大会連続出場。ワールドカップ入賞多数。現在オーストリア・インスブルックを本拠地に活躍中。



櫻井 知克士さん スピードスケート コーチ

- 1967年生 北海道帯広三条高校、体育学科出身。
- 緑園中学校 帯広スケート連盟所属。
- 三条高時代はインターハイに出場。
- 日体大でも総合主将を務め、「スケートがなかったら今の自分はない」とスケートに対する感謝の気持ちは強い。
- 指導者としての手腕が買われ、今大会注目の日本スピードスケート史上最少15歳で出場する高木美帆選手のコーチとして今大会参加。



日本体育大学の卒業生であることに誇りを持ちオリンピックに参加してきます。大学卒業から20年経ち、指導者として教え子の晴れ舞台をしっかりとサポートしたいと思います。他の種目の日体大関係者と共に最高のパフォーマンスをお見せしたいと思います。応援を宜しくお願いします。

VANCOUVER 2010 パラリンピック冬季競技大会

2010年バンクーバーパラリンピック冬季大会が、3月12日から10日間にわたって開催される。本学関係者からは、小池岳太選手が選出された。

小池 岳太選手 アルペンスキー

1982年生 長野県立諏訪向陽高校出身。セントラルスポーツ所属。社会体育学科出身。高校時代よりサッカーを続けるが、本学在学中に交通事故に遭い、左腕を負傷。アルペンスキーを始め、前回トリノ五輪にも出場。



前回のトリノでは、競技を始めてから日が浅く、夢中で打ち込んでいううちに出場できたといった大会でしたが、今回はこの日のためにスケジュールを組んで、4年間毎日練習に取り組んできました。自分にとって非常に重い意味がある大会ですので、なんとしても結果を出したいと気合が入っています。まだ課題は残っていますが、目標はもちろんメダルです。パラリンピックには、オリンピックに引けをとらないレベルの高い選手が出場します。また、障害を乗り越えて自分の限界に挑戦する姿は、必ずや見る人の心を打つはず。ぜひ注目して欲しいです。壮行会では、学生の皆さんから魂のこもった応援をいただきました。この熱い思いを自分の力に変えて、持てる力を最大限に発揮したいと思います。

新鋭、ベテランが揃う 日本選手団を応援しよう!

第21回オリンピック冬季競技大会 (2010/バンクーバー)

本学・本橋麻里選手をはじめ、注目のアスリートたちが集結した日本選手団。前回、金メダル1個だったトリノ大会はもとより、過去最高だった長野大会を上回る結果を残そうと、意気込みを見せている。日本選手団の活躍に目が離せない。

■ 開催期間 2010年2月12日～28日(17日間)
■ 日本選手団・役員 代表選手94名、役員111名
(1月28日現在)

■ 実施競技・種目 7競技・86種目

○スキー ○スケート ○アイスホッケー
○バイアスロン ○ボブスレー
○リュージュ ○カーリング

(日本選手はアイスホッケーを除く6競技に参加)



バンクーバー2010 パラリンピック冬季競技大会

40か国以上、約1350名の選手・役員が参加。3月に開催される。

■ 開催期間 2010年3月12日～21日(10日間)
■ 日本選手団 代表選手37名、役員44名(1月25日現在)
■ 実施競技 5競技

○アルペンスキー
○クロスカントリースキー
○バイアスロン
○アイススレッジホッケー
○車いすカーリング



日体大と冬季オリンピック

過去冬季五輪においても、日体大関係者がアスリート・役員として活躍してきた。今後も選手・指導者育成に力を注ぎ、わが国冬季スポーツの競技力向上に貢献していきたい。

■ 冬季オリンピック入賞者(日体大関係者)

選手氏名	備考	回	開催年	大会	開催国	成績
青柳 徹(あおやなぎ とおる)	体育学科 出身 短期大学部体育科准教授	15	1988	カルガリー	カナダ	スピードスケート(1500m) 5位
		18	1998	長野	日本	スピードスケート(1500m) 8位
楠瀬 志保(くすのせ しほ)	体育学科 出身	17	1994	リレハンメル	ノルウェー	スピードスケート(1000m) 6位
近藤 陽子(こんどう ようこ)	短大保育科 出身	18	1998	長野	日本	アイスホッケー6位
野明 弘幸(のあけ ひろゆき)	社会体育学科 出身	18	1998	長野	日本	スピードスケート(1500m) 7位
皆川 賢太郎(みながわ けんたろう)	体育学科 出身	20	2006	トリノ	イタリア	スキーアルペン、男子回転 4位
本橋 麻里(もとはし まり)	体育学科 2年	20	2006	トリノ	イタリア	カーリング 7位

本学教授が語る冬季競技の見所

スケート

危険性を秘めている勝負の後半に着目

スピードスケートについては、日本は伝統的に500mでは世界トップクラスです。選手は一般的に最初の100mをいかに速く滑るかに心血を注いでいます。技術的なことをいうと難しいので、単に100m通過時のタイムに注目するだけで楽しめるでしょう。しかし、通常、強い選手はスタートダッシュがうまく、100mのタイムがいいのですが、中には追い込みで勝負する人もいますので要注意です。本番は2回滑りますので、レース展開を予想するのも面白いです。たとえば、有力なメダル候補の選手がスタートで出遅れたときでも、30数秒のドラマはすでに始まっています。疲れている状態で、トップスピードで突入する最後のカーブも何かが起こる危険性を秘めているので見所です。

1000m、1500m、5000m、10000mといった中・長距離では、日本と世界の間には大きな壁があります。よく「体格・パワーで劣る日本人は長い距離では不利」と言われますが、実は外国人選手は、胸に脚がつきそうなくらい大きな身体を折り曲げ滑るなど、技術的にもしっかりしています。その中でも1周のラップタイムに注目しましょう。10000mは25周滑るわけですが、強い選手は疲れが出るはずの15周目あたりから、逆にタイムが速くなるなど驚かされますね。

ちなみに、15歳で2500mなどの日本代表となった高木美帆選手のコーチは、日体大出身の櫻井知克士コーチなんです。

また違った見方としては、シユーズのエッジ部分です。スケート・シユーズのエッジは、湾曲部分のはじまる地点やその長さなど、選手一人ひとりでベストの位置が微妙に異なります。そのベストの位置を求めて、普段の練習からコーチと地道な試行錯誤を重ねてきているので、そうした辺りに着目するのも面白いかもしれません。

日本のメダル獲得が期待できる種目はやはり500m。あとは、前回のトリノ大会から、3人1組でレースを行う『チームバシユート』という種目が正式種目となったのですが、そちらも可能性がありそうです。

フィギュアスケートについては、マスコミなどで大々的に取り上げられている注目の競技です。こちらは技術どうこうではなく、演技の華やかさ、その表現しようとするものを、素直に楽しめばいいのではないのでしょうか。



社会体育学科／野外方法(氷上)研究室

田中邦雄教授

スキー

「極限の戦い」に注目したい

日本のスキー文化は自然の中でたわむれる、華麗なシユールを描いてダンスのような滑りを楽しむことを中心に発展してきました。それに對し特にヨーロッパでは趣味で楽しむと同時に、スキーを競技として観戦するということが歴史的に発達しています。今回のオリンピックでもアルペン競技は非常に盛り上がると思います。多くの方はテレビの前で日本から応援することになるとと思いますが、会場の熱気は十分に伝わってくるはずです。

その中で日本人選手の活躍は私個人としても楽しみにしています。欧米には大型選手が多く、日本人選手は「敏しう性、巧みさ、知力」と3つの柱で対抗するしかありません。3つの柱のうち知力に関しては「経験×体力」で形成されると思います。これまで世界中を転戦してきた数多くの経験を基にした的確なレース戦略に加え、レース当日にベストなコンディションで臨むことができれば、世界中をアツと驚かす結果が出て不思議ではないと思います。

種目別で見ると、スラローム(回転)において日本人選手は世界のトップクラスにもっとも近いところにいます。今回は男子のみのエントリーとなりましたが、大会開幕の前日(2月27日)に行なわれるレースは必見です。ここ数年、用具の進化も進み、カーブの技術力の差が出やすいカービングスキーが主流となりました。スラローム競技では選手が体をギリギリまで倒して方向転換を行い、斜面を降りていきます。言わば「極限のバランス」です。すこしでもバランスを崩せば、転倒やコースアウトの危険性もあります。この選手たちの究極の戦いは日本人選手が得意とするところでもあります。是非とも大きな成果を挙げて欲しいと期待しながら、私も声援を送ります。

急斜面を攻略し、極限の滑りを追求する、そしてタイムの速さを競う。アルペンスキーはシンプルな競技性の裏に様々なドラマも待っています。今回のオリンピックでは、その選手たちの最高の緊張感、ゴール後の開放感を自分のことのように体感して楽しんでいただければと思います。



社会体育学科／野外方法(雪上)研究室

大出一水教授

応援ありがとうございました

第86回箱根駅伝が開催された。

往路は、3区で区間賞を獲得した野口拓也の8人抜き快走、

4区久保岡諭司の健闘で第3位。

復路では順位が後退するものの、粘り強い走りを見せ

総合成績第9位で大手町にゴール。来年のシード権を確保した。

予選会を勝ち抜き、手にした今回の出場。

ひたむきに努力を続け、箱根路を全力で駆け抜けた選手たちに

拍手を送りたい。



3区野口（茅ヶ崎付近）



走ることへの情熱、挑戦の^{たすき}襷を次につなげていく…



菅原 勲
陸上競技部部长

今年の箱根駅伝は総合9位となり、来年のシード権を獲得することができました。往路は3位となり好位置につけ、復路に期待を抱かせる流れになりましたが、復路は本来の実力を発揮できない展開となり、非常に残念だったと思います。箱根駅伝で勝つことの難しさを改めて実感しております。

今回の大会に臨むにあたって、特別な思いがありました。陸上競技部部員1名による不祥事のため、出雲・全日本大学の両駅伝に出場できなくなり、駅伝の実践的な経験不足があったことです。しかし、これも試練と捉え常に前向きに精進してまいりました。今後も更に努力を積み重ねたいと思います。

最後になりますが、多くの皆様にご心配やご迷惑をお掛けしましたことをお詫びいたします。また、いつもと変わらず盛大にご声援くださいましたことに、深く感謝を申し上げます。

本当にありがとうございました。



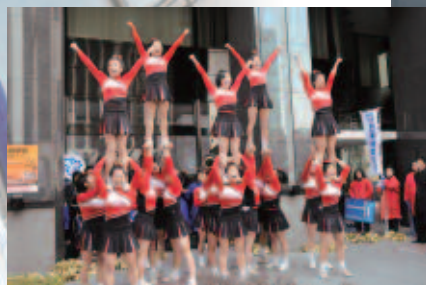
野口 拓也
往路 3区区間賞
(体育学科3年 東北高校出身)

大会直前の調子が非常によかったため、結果は必ずついてくると思っていました。12位で襷を受けましたが、自分が次がいい位置でつなげれば、流れに乗っていきけると思いましたが、区間賞はひそかに狙っていたので、個人としてはうれいしです。しかし、チームの成績が一番大切なので正直なところ、悔しさはあります。

沿道からのたくさんの方の声援は、とてもありがたく、選手全員が助けられています。

来年は、キャプテンという立場でもあるので自覚をもつて走りたいと思っています。

今後も応援をよろしく願っています。



4区 久保岡
(小田原山王橋付近)

1区 出口
(大手町付近)

■第86回箱根駅伝結果

総合成績 9位 11時間21分45秒 (来年のシード権確保)

往路成績 3位 5時間36分15秒

復路成績 17位 5時間45分30秒

往路

1区 出口 和也 (3年) 1時間04分18秒 ⑫

2区 森 賢 大 (4年) 1時間09分18秒 ⑧⑫

3区 野口 拓也 (3年) 1時間02分46秒 区間賞 ①④

4区 久保岡 諭司 (4年) 56分45秒 ②②

5区 長尾 正樹 (4年) 1時間23分08秒 ⑧③

復路

6区 高尾 博教 (4年) 1時間04分23秒 ⑫⑩

7区 早川 智浩 (1年) 1時間07分11秒 ⑪⑩

8区 筱寄 昌道 (3年) 1時間07分47秒 ⑦⑩

9区 谷野 琢弥 (3年) 1時間12分41秒 ⑬⑩

10区 小柳津 幸輝 (3年) 1時間13分28秒 ⑩⑨

○は区間順位、●は総合順位

往路108.0km、復路109.9km を支えたサポーターたち

今年も往路・復路の沿道には、学生、卒業生、保護者、そして日体大ファンの方々などたくさんの皆さんが応援に駆けつけてくれました。世代、立場は違っても、選手に声援を送る気持ちはひとつ。毎年のことながら、オール日体大の絆の強さ、本学に対する熱い思いを感じずにはいられません。全学を挙げて皆さんのご期待に応えられるよう、今年も努力して参ります。



スタート地点では日体拍手で選手を送り出した



応援団部は朝4時半に大学を出発



ゴールにて。卒業を控えた部員が感極まって涙する姿も



各応援ポイントの熱気の特設ブログで速報! (日体大HPへ)



チアリーダー箱根隊の演技



PROFILE ● もりしま あさのぶ
1949年生まれ。東京都出身
●教職教育I
●中央大学法学部卒

教員志望者はもとより、日体大で学ぶ学生たちには、ぜひ多角的で広い視野を備えて欲しいと思っています。それは私の長年にわたる教員、教育行政職での経験に基づき願いです。

都立高校の社会科教員を15年務めた後、東京都教育委員会の指導主事となったわけですが、そこで数々の新たな発見がありました。自分なりに教科、特別活動、生徒指導に努力してまいりましたが、広く教育現場に目を向けてみると優れた先生方がおられ、素晴らしい実践がたくさんある。こうした事例を多くの先生方に紹介し、橋渡しをするのが私の役目であると認識し、その後教育行政の道を長く歩むことになりました。

文部科学省教科調査官、生徒指導調査官、国立教育政策研究所総括研究官、文部科学

省視学官等を務めさせていただき、全国津々浦々の学校を回り、教科の先生、生徒指導の先生、校長先生、教頭先生とともに研究・研修に取り組んできました。視察のため海外の日本人学校を訪れたこともあります。このように私の研究・活動は、教育課程から学校運営に至るまで教育全般にわたるものであり、教育現場での実践を基盤とするものです。教育は、児童・生徒を対象に家庭・地域をも含めた総合的、組織的な営みであり、多面的、多角的な視野からの研究実践が極めて重要であると実感しました。

教師は二教科のみを教えていればいいというものではありません。保健体育科であれば、特別活動や諸行事でも積極的な役割が求められるでしょう。保護者や地域の方々との連携も必要になってきます。子どもの成長を中心に据えて、教育や社会のありようまでを俯瞰していく全体的な視野が必要になってくることは言うまでもありません。

大学での勉強は、高校時代とは違います。与えられるのを待つのではなく、自ら勉強しなければいけないのです。大学時代、私は法律・政治学を専攻しましたが、ゼミでは同期生、時に

は先輩・後輩を交えて徹底的に討論しました。同じ学生同士の中で、つたない意見、主張であったかもしれませんが、率直に論じ合う。批判されることもありましたが、自分だけで学んでは、自己中心的な考えに陥って、新しい気づきもありません。主体的にかつ多くの人々と関わり合いながら学ぶということは、視野を広げるためにも非常に重要なことですので、ぜひ授業に積極的に取り組んで欲しいと思っています。

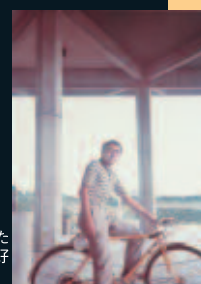
昨年、海浜実習に同行した時、日体大生のひたむきな姿勢、ピュアな心に触れ、学生たちのために頑張らなければいけないと決意を新たにしました。一昨年3月、幼稚園・小学校・中学校の学習指導要領等が改訂され、昨年3月には高等学校と特別支援学校も改訂されましたが、そこでは、知・徳・体のバランスのとれた人間の育成が強く求められています。この点において、日体大生は高い資質を備えているわけですが、卒業後は指導者、教育者として青少年たちにこの資質を育んでいくという使命も担っています。知育、徳育、体育といったそれぞれの領域では先進的な研究が進んでいますが、これらをどう有機的に結びつけ、トータルに人

全国各地の学校を回り、
この目で見てきた
優れた教育実践を
未来を担う学生諸君に
伝えていきたい。

教職教育I研究室
森嶋 昭伸 教授



父の故郷、伊豆半島を夏休みにハイキングで回った時の写真。
(大学2年)



友人とサイクリングセンターに行った時の写真。今でもサイクリングは大好きです。(大学4年・伊豆修善寺)



PROFILE ● もり とおる
1947年生まれ。福岡県出身
●教職教育I
●横浜国立大学教育学部卒

人、とりわけ子どもと関わる楽しさ、学級経営・学校経営への情熱。それらが私の生涯研究を支えてきました。子どもの心、子ども同士の間関係をしつかりつかむことで、個を活かした望ましい集団指導を展開することができそうです。そういった意味で、小学校・中学校・高校の学校種を問わず本質的なところを勉強してきたと思っています。

下校時間になってもなかなか帰らない生徒を叱ってしまった時のこと。当時、生徒に毎日日記を書かせていましたが、その中で「上履きが散らかっていたので整頓していた。砂埃がひどく掃除をしていたら遅くなつてしまい、先生に叱られてしまった」という記述を見つけ、すぐにその生徒に謝りました。後に結婚式に招待を受けるほど慕われるようになりましたが、

子どもを理解し、心をつかむことは非常に難しいことです。

小学校で学級担任を約20年。指導主事として教育行政にも関わり、学校現場に戻ってから校長職・教頭職を約15年務めました。中でも、地域の先生方と私的なサークルを作り、学級経営について研究を続けてきた活動は意義深いものであったと思います。いじめ、不登校など学校現場の問題が複雑化するにつれ、家庭や地域との連携がますます必要になってくる強く感じました。

いじめ、不登校の問題においても、子ども同士はもちろんのこと、教師、保護者、見守る地域の大人たちと子どもとの人間関係、信頼関係を築くことが重要であることは言うまでもありません。子どもの中に自分が他者から認められているという感情、つまり自尊感情を育むことが不可欠であり、対処療法ではなく、攻めの教育をするにはどうすればいいか、他校の先生方や地域との連携を深めながら取り組んできました。

日体大の学生は、スポーツを通してしっかりと自己を形成しているし、素直で思いやりがあり、優れた教師、指導者になる資質を持つ



教職教育I研究室

森 徹 准教授

子どもの気持ちをつかむ難しさ。
素晴らしい。

厳しさの中にも愛情を持って
若い学生たちと接する「今」が一番。



大学入学記念写真
亡き母と。(大学1年)

く惹かれました。学級、学校とさえども、人を率いる一群の将であるわけですから、後の仕事にも相通じるものがあり、共感したのではないのでしょうか。人心をつかみ活かせ、勝負時を逃さない将としての器。チャンスメーカーたれという日体大スピリットとも共通します。

30代の頃から、自らに言い聞かせてきた言葉があります。「今が一番であれ」。あれこれ先を思い煩うことなく、目の前のことに全力を挙げ取り組む。日体大の学生と一緒にいきいきと学び、教師とは何かを追い求めていくことが、今一番の生きがいです。

る教師になつて欲しいと思います。

私自身の学生時代を振り返ってみて、成績については些か心もとないものがありますが、学内外で実にさまざまな経験をする事ができました。ちょうど大学紛争の折、休校となつた期間を使って、日本全国を一人で旅したことも思い出です。山の中、夜道を歩き、民家に泊めていただいたこともありました。人の優しさの数多く触れ、教師を目指す上で糧となつたと思っています。学問的には日本史に興味があり、特に豊臣秀吉のハングリーな生き様には強



自然の美しさに感動。おどけた仕草に。
(大学4年・東北八幡平)



ヒッチハイクとサイクリングで旅行。学友3人で。
(大学4年・北海道知床岬)



PROFILE ● 伊藤 せいいちろう
1952年生まれ。東京都出身
●教職教育Ⅲ
●日本体育大学体育学部卒

良い体育の授業の条件とは何だろうか。日体大を卒業後、公立中学校に赴任。新人教員として生徒たちに接すれば接するほど、勉強を続けていくことの必要性を痛感しました。顧問を務めるバスケットボール部の指導で、休日は年に4、5日。目が回るような忙しい日々の中で、唯一の勉強手段として、月刊「体育科教育」を毎号欠かさず読み続けようと決意したのもこの頃です。

自己研鑽、研究への思いが募り、後年になって東京都の教育研究員に応募、採用され、「健康と環境」という保健分野のテーマに取り組むことになりました。今や非常に重要な社会的問題ですが、当時は興味を示す生徒が少なく、クイズや討論を取り入れ授業を工夫しました。研究を通して、指導主事の方々とさまざま

まな先生方と出会い、目を覚まされた覚えがあります。知識がものすごく広い。いつも生徒の目線に立つて物事を考えている。キリンの首はなぜ長い？鶴はなぜ一本足で立っているの？これらが全部環境の授業の材料になるんですね。考えたこともありませんでした。幅広い知識を持つているから、保健体育に絞った時により鮮明で深いものが出てくる。生徒たちの目線でやさしい言葉で教えることができるのです。こうしたこともきっかけとなって、指導主事として、教育行政の立場で研究、先生方の研修のお手伝いに携わるようになりました。具体的には、学習指導要領の徹底はもとより、保健室登校、いじめ、不登校といった教育現場の問題、体育実技におけるいわゆる個に応じた指導の推進などについて研修を重ねました。

約40年にわたり実践や研究を続けてきましたが、新任当時に出会った横浜国立大学高田典衛先生の言葉は今でもするどい言葉だと思っています。

1. いっぱい汗をかいたか
2. できるようになったか
3. わかったか
4. 友達がいっぱいできたか

高田先生が良い体育実技の授業の4条件として指摘されているものです。

自らの経験に照らし合わせると、腑に落ちることが多々あります。思えば日体大時代、オリンピック選手を数多く育てた阿部和雄先生が、器械体操が苦手だった私を付きっきりで指導してくださったことがあります。オリンピック選手を教えることができて、器械体操ができない学生を教えることができなかったら一流の指導者ではない。先生のこの教えは、私の人生の真ん中にずっとあります。上手な生徒だけが光るのではなく、汗をかき、わかっているようになり、みんなが光ることができる指導。まさに4条件そのままです。

生徒を教え、先生方の研修のお手伝いもさせていただき、校長として学校経営にも携わりました。これから自分が何をすべきかを考えた時、教員を目指す若い人たちの指導に関わりたいと強く思うようになりました。教育現場で日体大の学生や卒業生に接することも多く、その素晴らしいさを実感し常々生徒たちのモデルにしてみました。そのような皆さんのお役に立てることを嬉しく思っています。

経験を踏まえて、いかにリアリティに富んだ

授業をするか。例えばバレーボールのネットの張り方。国際ルールに従い、何メートルいくつで張るばかりではなく、斜めに張ると生徒の動きがみんなが楽しめるようになるんだよ。そんな話をすると学生の目が一気に輝いてきます。すべて経験の中で試行錯誤しながら答えを模索してきた「よい授業」の実践です。

学生の皆さんのために、私自身もまだまだ勉強を続けていきたいと思いを新たにしています。



教育実習中の器械運動の授業（大学4年）



教職教育Ⅲ研究室

伊藤 清一郎 准教授

教育現場で追求し続けてきた
「良い授業」の実践。
それを伝えるために、
日体大生とともに
汗をかいていきたい。



教育実習の巡回指導に来てくださった
日体大の先生と実習校玄関にて（大学4年）



PROFILE ● まつもと しんご

- 1978年生まれ。愛媛県出身
- 運動方法(レスリング)
- 日本体育大学大学院
体育科学研究科博士前期課程
- 修士(体育科学)

柔道におけるトレーニングの二環として始めたレスリング。この出会いがなかったら、2度にもわたり五輪の舞台に立つことも、そして母校に戻り指導者として学生に接するチャンスをいただくこともなかったでしょう。

バルセロナ五輪(1992年)での古賀稔彦選手、吉田秀彦選手の活躍に憧れ、柔道に打ち込んでいた中学生時代。柔道部を指導していた先生は、日体大レスリング部OBでした。まさしく、私とレスリング、日体大との縁を結んでくれた最初の「恩師」です。柔道の練習が終わった後にレスリングを少しやるといった程度でしたが、始めたばかりにもかかわらず、全国中学校レスリング選手権大会で優勝することができました。

高校に進学するにあたっては、レスリング強



豪校からのお誘いも頂きましたが、恩師の勧めに従い、あえて地元愛媛県の高校で柔道とレスリングを両立する道を選びました。柔道の練習量も多くなりハードな日々でしたが、柔道でインターハイ2位、レスリングで国体優勝することができ、恩返しのできたのではないかと思います。

この国体の時、声をかけてくださったのが、もうひとりの「恩師」日体大・藤本英男先生です。「五輪に出たいなら日体大にきなさい」。この言葉に気持ちが動きました。スポーツ選手である以上、オリンピックは夢。小学校時代から続けてきた柔道に対する思いもありましたが、本格的に取り組む時間がほとんどないままに全国トップに登りつめることができたレスリングに、自分の可能性をかけてみようという決心しました。

私が日体大に入学したのはちょうどアトランタ五輪(1996年)の年。目の前のマットの上で練習している先輩たちが五輪に出場していく姿を見て、藤本先生の言葉の重みを実感するとともに、日体大で頑張れば自分もチャンスをつかむことができると決意を新たにしました。

運動方法(レスリング)研究室

松本 慎吾 助教

オリンピックに出るために
日体大を選んだ。
母校のマットの上から、
後に続く選手を育てたい。



その一方で、当初は柔道の構えにとらわれ、体が思うように動かず、もどかしさを感じることもありました。大学2年の時に全日本選手権で決勝に進出。この頃から、レスリングの型が自分のものとして感じられるようになり、本当の面白さがわかり始めてきました。大学4年で全日本選手権で優勝し、日本代表となるものの、残念ながらシドニー五輪(2000年)は出場権が得られず、アテネ五輪(2004年)で夢を果たしたわけです。

アテネ後、世界で勝つためにはどうすればいいかというのをさらに追求するために、大学院に進学しました。ここでは自分の得意技である「俵返し」を徹底的に分析しました。ウェイトトレーニングやマット上での練習を検証し理論的裏づけを得ることで、北京五輪出場に向けて大きくプラスになったと思います。

五輪を目指して努力してきた現役時代。メダルが獲得できなかったことは心残りですが、充実した選手生活を送ることができて満足しています。

同じ体重で道具を使わず、体と体、闘志と闘志がぶつかり合うのがレスリングの魅力。今以上に、一人でも多く五輪選手、そしてメダリス

トを育てていくことが私の使命です。かつて私も、藤本先生に「このマットから五輪に行くんだ」という檄を、何十回、何百回、何千回と言われ続けました。意識づけが非常に重要で、しっかりと目的を意識することが五輪出場に向けた必須条件です。一番練習をしている選手が勝利者になることも当然。基本中の基本ですが、指導において絶対に妥協したくないと思っています。

それは、他の競技の選手、また教員や就職を目指す学生にとっても同じことが言えます。何を目標として日体大にきたのか。そのことをあらためて自覚し、さらに高い目標を目指していきましょう。



大学3年生(写真左側)



長期海外研修報告

平成20年9月1日～平成21年8月31日

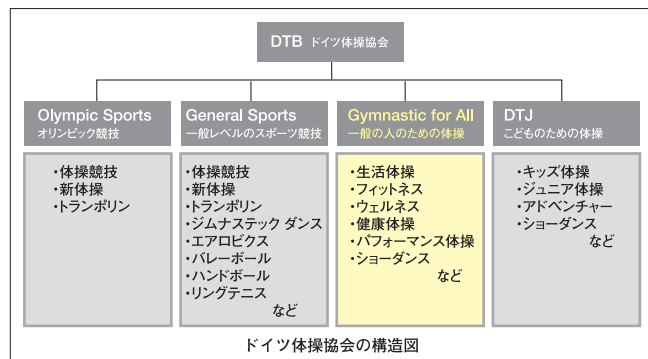
運動方法(体操)研究室

三宅 良輔 准教授

中高年者における「たのしい体操のアイデア」を求めて、日本体育大学の長期学外研修制度にて1年間ドイツへ行って来ました。私にはこれまでにヨーロッパをはじめ海外の体操にふれあう機会はありませんでしたが、これは本学体操部の海外公演の引率や自身の創作体操の演技発表などが主な目的であったため、ゆつくりと海外の体操グループの活動などを調査することが出来ませんでした。私が研修先にドイツを選んだ理由は、4年前にベルリンで開催されたドイツ国際体操祭(International Deutsches Turnfest)で見た高齢者の活躍でした。

「50+演技発表会」では演技発表者も観客もすべて50歳以上の人々が会場が埋め尽くされ、笑いや歓声が会場を包み込む素敵な発表会が展開されており、また別会場の体操競技や新体操などの競技会においても60歳の部、70歳の部といった試合が真剣勝負で行われていました。その時に感じた参加者の「いきいき感」

”参加者同士の仲間意識”などは私の気持ちを強く揺すぶり、「彼らの日頃の活動を見てみたい」という思い



ドイツオリンピックスポーツ連盟(DOSB)が認定するドイツスポーツパジテストに見事合格。スポーツ愛好家を対象に水泳種目、陸上種目、器械体操、自転車、スキー・スケートなどの種目を総合的にテストし、その基準記録やタイムのクリアが認定の条件。日本人の挑戦が現地新聞に取り上げられ、スポーツ面の1面に掲載された。

に駆られたのです。そして、4年に一度のこのドイツ国際体操祭が2009年にフランクフルトで開催されることもあり、ドイツを研修先に選びました。

ドイツ体操協会(Deutscher Turner-Bund:DTB)では図のような構造に分けられ運営されています。私の調査対象は「Gymnastics for All」のカテゴリーでありました。この中でも特に、中年の男性および男女高齢者の年齢層の生活体操や健康体操にターゲットを絞り、協会が取り組む体操クラブの管理・運営、指導者育成、体操祭の開催などを中心に観てきました。またこの下部組織にあたるドイツ各地の州体操協会(Landesturnverband)がそれぞれ地方の住民らの生活に体操を根付かせるマネージメントを行っています。

私の主な活動は、自宅のあったノルトライン・ヴェストファーレン州体操協会の主催する指導者講習に参加し、そこで出会った指導者らが活動する体操クラブ(Turnerbund)に足を運び、クラブ活動の見学や参加をさせてもらったり、私が日本で行っている体操の指導をさせてもらったりしていました。中でも特に1年間通い続けた「Vohwinkel STV 1865/80 e.V.」体操クラブの高齢者グループのメンバーと中年男性グループのメンバーの方々とは、体操やスポーツでのお付き合いではなく、プライベートのお付き合いまでさせていただきました。そして皆さんからドイツの文化や歴史、ドイツ人の気質や考え方など多くのことを学ばせていただきました。

ドイツの高齢者のほとんどが子どもとの同居はしておらず、高齢にもかかわらず夫婦だけで二人暮らし(二人暮らし)をしているか、老人福祉施設に入居しているのが現状です。ドイツ体操協会はこの現状を踏まえて、高齢者体操の第1の目的を「自立した生活を営むためのからだづくり運動」としています。私が見てきた体操クラブの主な運動内容は次のようなものでした。

①転倒予防のために脚部の筋力アップ運動

どのクラブともかなり脚部の筋力トレーニングに時間をかけていました。歩く運動に加え、座ったり寝た

ドイツ国際体操祭 (International Deutsches Turnfest 2009 Frankfurt)



ドイツ体操祭の歴史は古く、1860年にバイエルン州のCoburgで開催されたのが始まりです。ドイツ体操協会が各都市との共同開催で行うこの大会は、4年に1度の体操・スポーツ祭典で、今回フランクフルトで行われた大会が41回目となる歴史ある体操イベントです。組織委員会の発表によると今大会の参加者は約85,000人、全てのプログラムを数えるとその数は1,000を超え、以下の4分野のイベントが1週間かけて展開されました。

①スポーツ競技大会

体操競技、新体操、エアロビクス、トランポリンをはじめ、ドイツの伝統スポーツや陸上競技、バレーボール、ハン



ドボールなどに至るまで、あらゆるレベル・年代層での競技大会が行われました。

②600タイトルを超えるワークショップ

国内外から著名な指導者や研究者が一斉に集い、最新の情報やアイデア等を発表し、交換・共有されていました。実技ワークショップだけでなく、「TurnFest Congress」といった学術会議も開催されました。



③参加型のレクリエーションイベント

愉快的な参加型のスポーツテストや体力テスト、子ども向けの倒立マイスター技能検定など、ひと味違ったレクリエーションイベントが用意され、会場を盛り上げていました。また、運動用具メーカーのブースも多数出展されており、こちらでも新しい器具や用具などの無料体験に多くの人々が集っていました。

④体操発表会

国内から多くの体操クラブが、日頃活動している成果を発表するためにいくつもの会場で演技発表を繰り広げていました。また、ドイツ国内外から有名な体操クラブが集い、毎夕に体操スペシャルショーが開催されていました。今回のフランクフルト大会では、このスペシャルショーの一つに「Japanese Gymnastics and Culture Night」という日本チームの体操ショーが行われ、本校の体操部・ダンス部・伝統芸能コースの学生らが活躍し、約6,000人の観客らを魅了しました。



姿勢からの脚あげ運動などが良く行われていました。
②コーディネーション能力を高める巧緻性の運動
高齢者になると思うようにからだを動かせなくなることから、ボールやラケットなど遊具を利用して、コーディネーション運動を楽しくレクリエーションスポーツ感覚で行っていました。
③スポンジマットやGボール(バランスボール)を使ったバランス運動
バランス能力も転倒予防のためには不可欠なものとし、不安定なスポンジマットの上での歩行運動やGボールを使ったバランス運動などが行われていました。
④頭を使って考えながら身体を動かすこと
クロスワードパズルを解きながら、サーキットトレーニング

ングを行ったり、世界の都市名や動物の名前などを答えながらボール運動などを行うといった、脳のトレーニングを併せた運動が展開されていました。
日本では高齢者の運動指導となると、ストレッチ運動や軽いウォーキングを行う高齢者運動教室をよく見ますが、それと比べると断然アクティブに行われていたことが印象的でした。
また、体操の運動方法に関するアイデアを求めて、スペイン・デンマーク・スイス・オーストリアの近隣国にも向いて来ました。数々の体操祭視察や指導者講習会に参加したことにより、映像や写真など多くの資料を得ることが出来ました。



最後に、とても貴重な経験と時間を日本体育大学から頂けたことに心より感謝しております。私のこれまでの体操人生において特別な1年間となりました。この経験を今後の授業および教育研究活動を通して、学生の皆さんや大学に対して恩返し出来ればと思っております。そして、既に始まっている超高齢化社会における日本体育大学運動方法体操研究室の役割の一つとして、いつでもどこでもだれでも実践できる体操の魅力を、さらに深く勉強し、広く世間に伝えて行きたいと思っています。

クラブ名	大会名	結果	氏名
■駅伝	第86回東京箱根間往復大学駅伝競走	総合9位 3区 区間賞	野口 拓也(3) 内村 航平(3) 内村 航平(3) 内村 航平(3) 内村 航平(3) 中瀬 卓也(院前1) 内村 航平(3) 中瀬 卓也(院前1) 内村 航平(3) 田中 理恵(4)
■体操競技	第41回世界体操競技選手権大会 2009豊田国際体操競技大会	男子個人総合 優勝 男子種目別 ゆか 4位 男子種目別 鉄棒 6位 男子種目別 ゆか 優勝 男子種目別 平行棒 5位 男子種目別 あん馬 7位 男子種目別 鉄棒 優勝 2位	
■バレーボール	オーストラリア日本対抗戦 関東大学バレーボールリーグ戦 秋季(男子) 第62回秩父宮賜杯全日本バレーボール大学男子選手権大会 関東大学バレーボールリーグ戦 秋季(女子)	個人総合 5位 2位(5勝2敗) 敢闘選手賞 リベロ賞 3位 3位(4勝3敗) ブロック賞 サーブ賞	高松 卓矢(4) 名内 康輔(3) 岸本 瞳(2) 松山 美華(3)
■バドミントン	第60回全日本学生バドミントン選手権大会 男子シングルス 男子ダブルス 第60回全日本学生バドミントン選手権大会 女子シングルス	男子団体 3位 準優勝 ベスト8 ベスト8 女子団体 ベスト8 優勝 ベスト4	和田 周(1) 佐藤 黎(1) 三宅 達也(4) 三浦 時央(4) 佐藤 冴香(1) 井上 静華(3)
■硬式野球	首都大学野球リーグ戦 秋季 第5回関東地区大学野球選手権大会	2位(8勝4敗) ベスト4	
■ハンドボール	関東学生ハンドボール連盟リーグ戦 秋季(男子) 第52回全日本学生ハンドボール選手権大会(男子) 第61回全日本総合ハンドボール選手権大会(男子) 関東学生ハンドボール連盟リーグ戦 秋季(女子)	優勝(8勝1分) 最優秀選手賞 得点王 優秀選手賞 理事長賞 優勝 ベスト8 3位(5勝2敗) 優秀選手 特別賞 理事長賞 ベスト8	石川 出(4) 信太 弘樹(2) 甲斐 昭人(4) 玉城 啓弥(4) 高橋 佑奈(2) 鎌倉 絵美子(2) 多田 千尋(4)
■陸上競技	第45回全日本学生ハンドボール選手権大会 第93回日本陸上競技選手権リレー競技大会	男子4×400mR 3位 女子4×100mR 4位 女子4×400mR 8位 400m個人メドレー 優勝 準優勝(4勝1敗) 男子 優勝 女子 準優勝	長島 正憲(1) 水野 龍彦(1) 川村 将平(1) 加賀谷 秀明(1) 松本 菜摘(3) 河原崎 可央里(4) 須磨 加奈江(3) 渡邊 美里(1) 須磨 加奈江(3) 石澤 苑美(2) 吉田 あゆみ(1) 高野 未来(2) 堀畑 裕也(1)
■水泳(競泳)	第5回東アジア競技大会		
■ソフトボール	第41回東京都大学ソフトボール連盟秋季リーグ戦 第40回関東大学ソフトボール選手権大会	男子 優勝 女子 準優勝	
■フェンシング	第49回全日本大学対抗選手権大会 第59回全日本個人選手権大会	男子エペ団体 3位 女子サーフル団体 4位 男子サーフル個人 優勝 女子エペ個人 3位 女子サーフル個人 6位	徳南 堅太(4) 下大川 綾華(3) 武田 香織(4) 稲村 政人(4)
■相撲	第87回全国学生相撲選手権大会	個人戦 2位 団体戦 3位	榎 伸悟(4) 藤村 祥子(4) 藤村 あゆみ(2) 清水 玲香(2) 松本 梓(4)
■スケート	第29回全日本学生スピードスケート選手権大会(総合選手権) 第29回全日本学生スピードスケート選手権大会(スプリント選手権) 第82回日本学生氷上競技選手権大会	優勝 優勝 3位 7位 男子総合 5位 女子総合 2位 男子1000m 7位 男子10000m 4位 男子2000mリレー 2位 男子チームバシユート 6位 女子500m 2位 5位 7位 女子1000m 5位 8位 女子1500m 3位 女子1500m 5位 女子3000m 2位 3位 女子2000mリレー 2位 女子チームバシユート 優勝 アイスホッケー(男子) ベスト8	原 宏彰(2) 千葉 瞭太郎(1) 田口 和征(4) 矢野 力也(3) 中嶋 宣成(1) 原 宏彰(2) 金曾 将哉(3) 清水 勇介(3) 千葉 瞭太郎(1) 清水 玲香(2) 松本 梓(4) 大垣 さなえ(4) 清水 玲香(2) 大垣 さなえ(4) 藤村 あゆみ(2) 藤村 祥子(4) 藤村 祥子(4) 藤村 祥子(4) 藤村 あゆみ(2) 梓(4) 大垣 さなえ(4) 清水 玲香(2) 大久保 あゆみ(3) 藤村 祥子(4) 藤村 あゆみ(2) 工藤 朋佳(3)
■卓球	第32回日本学生ショートトラックスピードスケート選手権 バンクーバーオリンピックカーリング日本代表決定戦 第76回全日本学生選手権大会 第6回全日本学生選抜卓球選手権大会 第76回全日本学生選手権大会	男子総合 9位 女子総合 3位 優勝 男子シングルス ベスト16 男子シングルス ベスト16 女子シングルス ベスト8 女子シングルス ベスト16 女子ダブルス ベスト8	坂爪 亮介(2) 小山 友香里(4) 小口 絵理(4) 本橋 麻里(2) 手塚 理人(1) 手塚 理人(1) 李 セイ(3) 須磨 睦(1) 津田 比呂恵(4) 西岡 百子(4)
■柔道	第28回全日本学生柔道体重別選手権大会 第11回全日本学生柔道体重別団体優勝大会 グラントスラム東京2009国際大会	男子60kg 2位 ベスト8 男子60kg 3位	山本 浩史(2) 山本 浩史(2)
■剣道	第57回全日本学生剣道優勝大会 第28回全日本女子学生剣道優勝大会	団体 3位 2位	
■ウェイトリフティング	第54回全日本学生ウェイトリフティング新人選手権大会	105kg級 5位 +105kg級 3位 85kg級 6位 94kg級 7位 77kg級 5位 53kg級 4位 69kg級 3位	藤原 真太郎(2) 坂本 拓也(1) 早坂 誠(2) 松本 英将(1) 辻 誠人(1) 根岸 茜(1) 大城 裕里江(2)
■少林寺拳法	第43回少林寺拳法全日本学生大会	内閣総理大臣賞 文部科学大臣賞 団体演武の部 最優秀賞 優勝 日本武道館賞受賞	安東 雅喬(4) 多養 亮平(2) 栗田 佳織(4) 田邊 理菜子(3) 安東 雅喬(4) 渋谷 雄生(4) 深瀬 裕太郎(4) 川島 涼輔(3) 多養 亮平(2) 深瀬 敬二郎(2) 大本 恵一(1) 上田 悠太(1)
		女子団体演武の部 最優秀賞 優勝 少林寺拳法振興議員連盟会長賞受賞	栗田 佳織(4) 勝山 恵理香(4) 稲田 実花(3) 落合 由美(3) 田邊 理菜子(3) 内川 麻衣子(3) 遊作 麻唯子(3) 加藤 千佳(2) 中尾 美保子(2) 梅林 朱梨(2)
		全日本学生少林寺拳法連盟賞 男子三段以上の部 優勝 2位 男子二段の部 2位 5位 男子段外の部 優勝 男女二段以上の部 4位 女子三段以上の部 優勝 女子初段の部 優勝 男女初段の部 2位 女子単独有段の部 2位 単独段外の部 2位 男子三人掛けの部 優勝 女子三人掛けの部 2位 男子 2位 女子 2位	安東 雅喬(4) 多養 亮平(2) 小宮 一慶(3) 瓜本 久貴(2) 伊藤 之将(2) 鳴海 宏二郎(2) 以倉 竜一(3) 久保 風悟(2) 秋元 宏介(1) 澤木 健(1) 渋谷 雄生(4) 稲田 実花(3) 栗田 佳織(4) 田邊 理菜子(3) 加藤 十佳(2) 中尾 美保子(2) 藤原 龍之介(1) 吉田 沙樹(1) 大嶋 朋子(1) 佐藤 七海(1) 深瀬 裕太郎(4) 川島 涼輔(3) 深瀬 敬二郎(2) 内川 麻衣子(3) 遊作 麻唯子(3) 梅林 朱梨(2)
■ラクロス	第22回関東学生ラクロスリーグ戦	男子 優勝 ベスト4 女子 2位	



パラリンピック金メダリスト マティアス・ベルク氏(ドイツ)による 特別講演およびホルンコンサートが開催

パラリンピック金メダリスト マティアス・ベルク氏(ドイツ)による特別講演およびホルンコンサートが10月23日横浜・健志台キャンパスの学生ホールにて開催されました。

マティアス氏は、サリドマイドによる障害を克服し、ホルン奏者としてだけでなく、パラリンピックでも多数の金メダルを獲得しており、トップアスリートとしての体験談と、演奏を交えながら講演していただきました。同氏の人間的魅力に触れることのできる絶好の機会であり、参加した学生を魅了しました。

【プロフィール】

1961年西ドイツドルトムント生まれ。
1986年フランス・トゥロン国際ホルンコンクールにて、“古典 音楽特別賞”を受賞。
サリドマイドによる障害を克服し、ソリストとして世界中で活躍する一方、夏(陸上競技)、冬(スキー)のパラリンピックで、多数の金メダルを獲得。
98年の長野パラリンピックにおいてもドイツアルペンチームの団長を務め、チームの活躍に貢献した。



第49回体育研究発表実演会報告

第49回を迎えた昨年の「体育研究発表実演会」は、横浜市青葉区制15周年の記念事業とも協賛し地域密着型で開催され、大変な盛り上がりを見せました。また新潟・富山、石川で行われた北陸大会でも本学の一流の演技と日頃の研究成果をひと目見ようと、各会場では多くの観客で埋め尽くされ、大成功を収めました。

開催にあたり、同窓会の皆様をはじめ、多くの関係者にご協力いただきましたことに深く感謝いたします。次回開催は2011年を予定しています。(隔年開催)

開催日	会場	人数
11月6日	神奈川県横浜アリーナ	12,000人
12月11日	新潟県長岡市市民体育館	2,500人
12月12日	富山県富山市総合体育館	3,600人
12月13日	石川県いしかわ総合スポーツセンター	3,800人



本学から3人目となる関取誕生

大相撲初場所の新番付(12月2日発表)で、本学から3人目となる関取が誕生しました。新十両昇進が決まった宮本改め妙義龍(みょうぎりゅう)関は、大学4年時に、国体(成年)を制し、昨年5月の夏場所で幕下15枚目格付け出しで大相撲デビューし、以来、4場所連続で勝ち越しで十両昇進を決めました。

これで、垣添関(2001年武道学科卒業、武蔵川部屋)、嘉風関(2004年武道学科卒業、尾車部屋)に次いで本学3人目の関取。

【プロフィール】

妙義龍 泰成(みょうぎりゅう やすなり)
境川部屋
本名：宮本 泰成(みやもと やすなり) 2009年武道学科卒業
1986年10月22日生まれ 兵庫県高砂市出身 身長187cm、体重138kg



学費減免制度の新規制定について

『日本体育大学・日本体育大学大学院・日本体育大学女子短期大学部の学費等に関する規程』が一部改正され、経済的理由により修学が困難な者で学業成績が平均水準を超える者、または家計急変等により学費等の納入が困難である者の年間授業料の一部を免除する制度が新たに設けられました。

なお、詳細については、学生生活課へお問い合わせください。
学生生活課 TEL.03-5706-0904

■社会規範啓発活動のための 玉川警察署生活安全課長による講話を実施

平成21年12月12日(土)、東京・世田谷キャンパスの第一体育館において、警視庁玉川警察署生活安全課長をお迎えし、ビデオ映像を交えながら薬物に関する講話をしていただきました。学生及び教職員、約500名が参加し、薬物の恐ろしさを学びました。



■春のオープンキャンパス情報

体を『動かす』ことが好き!スポーツを『見る』ことが好き!スポーツを『教える』ことに興味がある!スポーツの楽しさを日体大で再発見してみませんか!!をキャッチフレーズに高校1・2年生を対象に春のオープンキャンパスが開催されます。日時は以下の通りです。

日時：平成22年3月27日(土)

時間：10:30～15:00

場所：横浜・健志台キャンパス



■学長による社会的規範行動に関する啓発講話

平成22年1月13日(水)横浜・健志台キャンパスにて、スポーツ推薦で本学に入学した1年生に対し、社会的規範行動についての講話が行われました。全国的に多発してきている重大事件において、ハインリッヒの法則を例にあげ、重大な事件の発生を防ぐためには、ささいなミスや不注意などを見逃さず、その時点で対策をしてほしいとの話があり、特にスポーツマンは常に結果が求められる立場にあるので、多くのストレスを抱えていることが多く、部長や監督、先輩などに相談し、ストレスを切り切るための術を持ってもらいたいとの話がされました。

また、学長講話終了後、成田和穂教授(スポーツ医学研究室)によるアンチドーピングの基礎知識についての講義がされました。



■青葉区内各大学と横浜市青葉区との連携・協力に関する基本協定の締結について

横浜・健志台キャンパスがある横浜市青葉区は市内でも大学が集積する地域となっています。その区内にある6つの大学と青葉区が密接に連携・協力し、知的、人的、物的資源を有効活用し、人材の育成、学術研究の向上並びに活力ある個性豊かな地域社会の形成・発展に寄与することを目的とした協定を結びました。連携協定を結んだ大

学と連携・協力項目は右のとおりとなり、これから連携によるプロジェクトが進んでいきます。詳細については横浜市青葉区のホームページをご覧ください。

《青葉区内六大学》

- ・カリタス女子短期大学
- ・國學院大学
- ・玉川大学
- ・桐蔭横浜大学
- ・日本体育大学
- ・横浜美術短期大学
(平成22年度から横浜美術大学)

《連携・協力項目》

- ア 人材の育成に関すること。
- イ 学術研究の向上に関すること。
- ウ 施設等の有効活用に関すること。
- エ 活力ある個性豊かな地域社会の形成・発展に関すること。
- オ その他両者が全条の目的のために必要と認めること。



協定締結式 平成22年1月15日(金)

◆ 訃報 ◆

進藤 満志夫教授(運動方法(バレーボール)研究室)が昨年11月30日(月)に富士宮市内の病院にて心不全のため逝去(享年69歳)いたしました。進藤先生は、バレーボール部男子監督として、全日本大学選手権大会優勝(4回)、関東大学1部リーグ優勝(5回)に導きました。全日本代表で活躍した三橋栄三郎、川合俊一(ともにロス五輪、ソウル五輪の日本代表)は進藤監督のもと本学で練習に励みました。

さらに、財団法人日本バレーボール協会強化委員、全日本大学バレーボール連盟強化委員などを歴任し、1975年ユニバーシアード大会(モスクワ)で全日本代表コーチ、1984年ロス五輪支援コーチ、1988年ソウル五輪支援コーチ、1992年バルセロナ五輪支援コーチとして、日本バレーボール界を支えました。

哀悼の意を表し、ご冥福を心よりお祈りいたします。

【編集後記】 21世紀も早いもので10年目を迎えました。思えば21世紀最初の年には、アメリカの同時多発テロ事件(2001年9月11日)や、本学東京・世田谷キャンパス(深沢)の2号館火災事故(2001年10月21日)がありました。辛いけれども忘れてはいけぬ出来事です。未来に期待や不安もありますが、今やれることをきちんとやる。継続する。これに尽きるのではないのでしょうか。これから開催されるバンクーバー冬季オリンピック・パラリンピックはスポーツの素晴らしさ、可能性、そして感動・感激をいっぱい届けてくれるはず。前号で特集した「原点回帰」の精神も力に変えて、元気に行きましょう!